

PHP

「効く温泉」を知る、癒される、健康を手に入れる

ほんとうの時代

50代からの暮らしに“質と楽しさ”をプラス!

[ライフプラス]

Life+

保存版

総力特集

温泉力を体感する——草津温泉
温泉を科学する／効能別温泉／温泉ケア今昔
魅力別温泉

温泉 バズブル

「効く温泉」のすべて教えます

[健康特集]

「食事」と「脳活性化法」で100歳まで長生き!

「健康で長寿」の生活習慣

[特別企画]

ほんとうの時代世代のリアルコスト

いくらかかる? 自費出版

1

2012 No. 255
定価680円

いのちの尊厳を守り、悲しみに寄り添う

ご遺族の想いを大切に、 心の絆を取り戻す活動を目指す

創立以来五十六年の歴史を誇る、経済産業大臣認可 全日本葬祭業協同組合連合会（以下、全葬連）。
全葬連は「東日本大震災犠牲者合同慰霊祭」を主催し、東日本大震災において、葬祭専門業者としてさまざまな支援活動を行なっています。
今回は、全葬連の会長・松井昭憲さんにお話を聞き、被災地への支援や合同慰霊祭のご報告もします。

——まず、全葬連についてお聞かせください。

葬祭業という職業が社会的に必要不可欠であること、その地位の向上、競争力強化による経営の安定、葬祭文化の発展を旗印に、昭和三十一年十一月十九日に「全日本葬祭業組合連合会」として創立しました。東京の築地本願寺で第一回目の大会を開催し、発足時の加入組合は十三、構成所属員数は八百五十一名でした。昭和五十年二月には、当時の通産省（現経済産業省）認可の創立大会が開催され、現在名の「全日本葬祭業協同組合連合会」に改組、改称しました。

平成二十三年七月現在では、会員全国五十八事業協同組合、所属

員千四百二十一名という、名実ともに日本最大の葬祭事業者の組織に成長しています。

——今まで対応された、緊急災害支援についてお聞かせください。

私たちは、各地方自治体との災害協定締結を積極的に推進し、支援活動を行なっています。過去、昭和六十年の日本航空機事故、平成七年の阪神・淡路大震災などが挙げられます。

——今回の東日本大震災について、どのような支援活動をされたのでしょうか。

三月十一日の地震発生直後から



まつい・あきのり ● 松井昭憲
全日本葬祭業協同組合連合会会長

経済産業省、厚生労働省、警察庁など官庁、各自治体などから棺の要請がありました。情報が混乱していて、棺の要請数も混在してい

東日本大震災の支援活動

全葬連および加盟組合は、東日本大震災の支援について、ご遺体の保安や搬送、棺や納体袋をはじめとした物資の拠出などの支援活動を行ないました。緊急車両通行証明について経済産業省を通じて約40台を申請。物的支援では58団体が協力し、棺を約5,100本、仏衣を約6,800着、納体袋を約5,500個集めました。人的支援では3月17日より活動を開始し、延べ890人が支援活動を行ないました。

①緊急車両登録



②物的支援



③人的支援



たので、所管官庁である経済産業省に窓口を統一し、棺や納体袋などの物資の提供、さらに棺の組み立て、ご遺体の保安、ご納棺および火葬場までのご遺体搬送など多数行ないました。

——「東日本大震災犠牲者合同慰霊祭」の開催についてお聞きしたいのですが……。

震災から約八カ月を迎えるにあたり、人々を弔う団体としてさらに何かできないかという強い思いがありました。被災地を訪ねることができないご家族や被災地域と関係のある方、都内で生活されている被災者の方々の要望から開催が決定しました。

東日本大震災では、多くの方が

心に深い傷を負いました。災害で亡くなられた方々を心より弔い、「残された被災者の方々の心に少しでも寄り添うべきではないか」という思いから、十一月五日の「津波防災の日」に合同慰霊祭を行ないました。犠牲にあわれた人々の御霊を少しでも鎮めることができればと、心より願っております。

実施に向けて苦労したことは、なぜ被災地ではなく、東京なのかといわれたことです。しかし、より多くの方に弔いの祈りを捧げていただきたいと思い、たくさんの方が集まりやすい東京にしたのです。所属員や関係者からもご賛同をいただきました。

——最後に、今後の活動と目標に

ついてお聞かせください。

大規模災害や事故が発生した場合、地方自治体との協定に基づき、専門家としての技術と知識を生かし、積極的に支援活動を行なっていきます。また、自治体との災害支援協定締結にも、積極的に取り組んでまいります。

全葬連所属事業者は、お客様によりよい葬祭サービスをご提供できるよう、葬祭業初の自主基準となる「葬祭サービスガイドライン」を定めております。このガイドラインを守ることに日々取り組んでおります。お客様やご遺族に対して、それぞれの状況に応じて、安心と信頼の葬祭サービスの提供に努めてまいります。

忘れない あの日のこと あの人のこと……

東日本大震災犠牲者 合同慰霊祭

「津波防災の日」にあたる11月5日、東京・港区の増上寺で東日本大震災による犠牲者の合同慰霊祭が開催されました。被災者や遺族ら約千人が参列し、慰霊祭はしめやかに行なわれました。



合同慰霊祭のスケジュール

時間	内容
14:00	開式 合同慰霊祭特徴概要説明および 震災対応報告
14:07	追悼の辞
14:20	導師、焼香開始
14:46	黙祷
14:47	鎮魂のことば
15:02	弔電
15:07	読経、焼香
15:30	閉式



①受付は、午後1時からスタートした。②主催は全葬連で、財団法人全日本仏教会と東京都仏教連合会が後援に。③導師は、東京都仏教連合会会長・廣國寺(こうおんじ)住職丹羽勝祥(にひしりょう)殿下(ひみか)が務めた。④合同慰霊祭には誰でも参列できるので、首座席の方もたくさん足を運んだ。⑤会場が静寂に包まれた1分間の黙祷。⑥司会進行は、キャスターの宮川世二さんが務めた。

津波防災の日に 増上寺に千人が参列

十一月五日は、東日本大震災の犠牲者を悼む行事が各地で行なわれました。都内の増上寺で開催された「東日本大震災犠牲者合同慰霊祭」(主催は全日本葬祭業協同組合連合会)は、都内で避難生活を送る被災者や遺族ら約千人が参列し、犠牲者の冥福を祈りました。

当日は天気にも恵まれ、首都圏での合同慰霊祭としては最大規模のものでした。地震の発生した午後二時四十六分には焼香を中断し、参列者全員で一分間の黙祷。被災地からは、津波で父親を亡くした宮城県石巻市の太田かおりさん(四十一歳)と夫を亡くした福島県いわき市の金成晃子さん(七十四歳)が出席し、「鎮魂のことば」を捧げました。声を詰まらせながら祭壇に語りかけると、会場からはすすり泣く声が続きました。野田佳彦内閣総理大臣をはじめ、被災地県の知事など、多くの方から弔電も寄せられ、閉会まで参列者の列は途切れることなく、焼香をしながらか犠牲者を弔っていました。

大切なご家族のために。 安心・信頼できる葬祭業者を選ぶには



このマークの事業所は信頼できる葬儀社です。

全葬連とは

ご遺族の「こころ」をかたちにする、信頼できる葬儀社の全国ネットワーク。

私たちは、経済産業大臣の認可を受ける日本最大の葬祭専門事業者団体です。全国に58事業協同組合、1,421事業者の全国ネットワークを持ち、一人ひとりの生活者の身になったサービスを何よりも大切に考え、安心・信頼の葬祭サービス、人材育成、災害支援に務めております。

葬祭サービスガイドライン

安心して葬祭サービスを受けて頂くためのガイドラインを遵守しています。

私たちは、葬祭業界初のルールブック(葬祭事業者としての指針)である、「葬祭サービスガイドライン」を制定し、全国加盟葬儀社がこのガイドラインを遵守しております。安心してご相談・ご依頼ください。

お気軽にお問い合わせください。



経済産業大臣認可

全日本葬祭業協同組合連合会 (略称:全葬連)

〒108-0075 東京都港区澁谷2丁目4番12号 澁谷YKビル4階

くわしい情報はホームページで <http://www.zensoren.or.jp/>

お電話でのお問い合わせは **03-5769-8701(代表)**